

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第 4 号

令和4年 10月 5日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

9月 7日 (水)

提案 鳥山 陽子 先生 (東山田小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 伊藤 友輝 先生 (仏向小)

記録 中嶋 祐太 先生 (浅間台小)

1 提案内容 単元名

単元名「東山田の農家のお仕事～Yさんのスマイル野菜づくり～」

2 提案者より

東山田小は都筑区北山田駅近くにある。地域には学校に協力的な農家のYさんが野菜づくりをしている。そこで生産単元では農家を選択した。単元の流れは、Yさんのほうれん草づくりについて調べることから、横浜市の野菜づくりに目を向けていく学習としたい。今回は、学習指導要領にある「地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われている」という内容をどう捉えるか、それに沿った単元となるか、評価規準をどうするか、検討したい。また、本時における本気の学習問題についても悩んでいる。

視点①

○単元構想について

- 横浜市のほうれん草の出荷数は全国でも上位である。給食から野菜の生産に意識を向け、Yさんの野菜づくりにつなげる。そこから単元を見通す学習問題をつくる。
- 単元を見通す学習問題について、3年生は横浜市の学習であるという観点から、「東山田」という言葉を入れるかどうかということが話題にあがった。
- 「Yさんは、(以前は市場に出していたのに) どうして今は、市場ではなく直売所だけに出荷しているのだろう。」という本気の学習問題につなげるため、10時間目に出荷先について学習する。
- 横浜市の農業として考えるとき、出荷先の選択率はどうなのかという話題があがった。区役所によると、都筑区は農家数が横浜市で一番多く、農業が盛んである。以前よりも直売所に出す農家が増えている。

視点②

○協働的な学びに向けて

- ・本時における話し合い活動とつながる部分として、「Yさんがなぜ直売所を選択しているのか」ということがあげられる。家族で農業を行っていたときは市場を利用していましたが、現在一人で農業を行うYさんにとって、新鮮な野菜を自分なりの売り方で販売できる利点から直売所を利用しているとのことだった。本気の学習問題を扱う際には、市場の批判とならないように配慮をしていきたい。

<講師の先生より> 日枝小学校 校長 加藤 智敏 先生

「市内」の生産活動をとらえるにあたっては「分布図」を効果的に扱うことが重要になる。市全体で作られている野菜を集めて白地図にまとめるなどすることで、東山田の野菜づくりに着目しやすくなる。また、消費者の「ニーズ」と生産者の「思い」が見えてくることで、学びの汎用性を生むために大切になってくる。市全体の生産活動のとらえも深まってくるであろう。本気の学習問題については、できるだけシャープにすることで、どの子にとっても考えやすくなる。この授業をどの「個」にどのように届けたいのかと具体的に考えることでよい授業が生まれていくと思う。

文責 北沢 宏 (間門小学校)